

人と人が交流する旅をつくる

(株)アイロード

社長 福永 栄子氏

(株)アイロードは、「みちくさ」という情報誌を発刊しながら、「人と人、地域と地域をつなぐ仕事」をしています。社名である「アイロード」とは、「愛で人をつなぐ」といった意味を持っています。

観光とは、「景色を見る」だけでなく、「人と関わる」という意味も持っています。棚田を見て美しいと感動するのは、棚田そのものの美しさもさることながら、それをつくった人たちのすごさに感動をしているといえます。ただ棚田を見るだけでなく、棚田をつくっている人たちと語り合う、棚田づくりを体験するというような交流の場をつくっています。観光業界では、いま「地旅（エクスカーション）」に力を入れていきます。地元の人が企画し、地元に着した旅です。観光という言葉进行交流に置き換えて地域住民と関わりながら、訪

れた人も、地元の人も元気になっていく。このような活動で、その地域の景観も守られていくと考えます。

私は、海外で医療事故にあり、病氣療養のためこの宮崎の地に来ました。主治医の先生からは、「一生酸素ボンベを背負って生きることになる」と言われていましたが、宮崎に来て2週間で酸素ボンベが不要になりました。「豊かな自然、澄んだ空気、そこに暮らす人々の温かさ」が私を救ってくれたのだと思います。以前、外交官になることを目指し海外を飛び回っていたころ、学生時代の恩師である緒方貞子さんからこんなことを言われました。「世界平和をなしえるのは、人と人、地域と地域の交流、まさに草の根のクモの巣状のつながりしかない」。この言葉がずっと頭の中にありました。この言葉と、宮崎・南九州への恩返しのような結びつきました。人と人、地域と地域の交流で、日本人が持ち続け、大切にしてきた貴重な生活文化や自然を敬い大切に思う気持ちを、一人でも多くの人に伝えたいと思い地域交流誌「みちくさ」を創刊しました。



昨年、「みちくさ交流フロント」を立ち上げました。市町村や学校・企業・各種団体・ビジネスマン・旅行者からのニーズや情報を『(株)アイロード』が事務局として集約し、それを情報誌として発信できたらと思っています。それぞれの地域の人々が、それぞれの業種の人々が『(株)アイロード』を介して、みちくさ交流フロントで『水平につながる』ことを目指しています。